

## イネツトムシ（イチモンジセセリ）

### ○ 被害と発生生態

成虫は体長約 20mm で全体が茶褐色のチョウで、百日草、アザミや赤クローバなどの花に集まるのが観察できる。幼虫は頭部が扁平で、体色は淡緑色で老齢幼虫の体長は 40mm 程度になる。

幼虫はイネ上位葉の先を数枚つづり合わせて「つと」（苞）を作り、昼間はその中に潜み、夜間にここからはい出て葉を食害する。出穂期前後に上位葉が多く食害されたり、つづられた葉が出穂した穂を折損すると、登熟不良や収量減となる。

山口県での発生は年 3 回程度であるが、水田では 2 回である。成虫は 5 月下旬頃から水田に飛来し、6 月上旬頃から第 1 世代幼虫が、8 月上旬頃から第 2 世代幼虫が発生する。第 3 世代幼虫は、ササ、タケ、ススキなどのイネ科雑草で発生し、幼虫で越冬する。

### ○ 防除方法

#### （ア）耕種的・物理的防除

- ・ 極端な遅植えを避ける。
- ・ 多肥栽培を避ける。

#### （イ）薬剤防除

- ・ 多発ほ場（1 株当たり 3 頭以上）では、防除を行う。
- ・ 防除は若令幼虫発生初期（7 月下旬～8 月上旬頃）に行うと効果が高い。
- ・ 出穂後のイネには産卵が少ないため、防除は出穂期までに行う。



成 虫



幼 虫



「つと」